

行仙宿・来宿者の対応と雨樋掃除作業他

◇ 実施日：平成26年5月1日(木)曇り後晴く2日(金)晴

◇ 参加者：生熊敏男、奥村順夫、竹中卓司 計3名。

連休中と言うが1日、2日は普段の日で、白谷トンネル下のカナウナギトンネル付近は、国道の法面工事中でいつもの交通規制があり、朝一番の時間帯に通り抜けるべく8時に通過。

背負子に二日分の食料・小屋雨樋の掃除道具・薪割り用鉄クサビを付けて9時半に小屋へ。気温は13度を指している。

まずは水汲みに降りて、先日川島代表に水場径の補修箇所を確認に降りる。

水場は先日29日の大雨の後であり、小さい石から大石まで落ちている。少し石をさらえておく。

水場径はすでに補修された後である、29日く30日椎木師一行の接待に上がった川島、沖崎両氏によって終わったとのメモ書きを見る。

小屋へ戻れば奥村、竹中両氏が到着している。

お互い一休み、午後の作業支度の後は腹ごしらえとなる。

午後は、竹中さんは笠捨山が始めてとの事で一人出かける。

奥村氏恒例持参の五月幟は、佐田ノ辻の立木に設置され、さわやかな五月の稜線の風にひらめいた。

小屋通過登山者も何人かいて、奥村さんに接待をお願いする。

小屋雨樋の掃除は、四く五年前に落葉除け網を取り付けてから全くしていなかった。細い網目をすり抜けている落葉は、網を外しながら取除いて行く。梯子ずらしながら上り下りするので、なかなか進まず、本日の作業を途中で終える。

今夜の登山者の泊りは、二名で実家は関西であるが勤務の沖繩からやって来た男女の二人であった。

5月2日の作業も昨日の続き雨樋掃除。

奥村さんは、水汲みから帰って竹中さんの薪割りに合流する。

12時頃二人は池原に廻るので小屋を下りて行かれた。

雨樋掃除も15時の交通規制に間に合わそうとピッチヒを上げ一応全部済ませることが出来た。

急いで帰り支度をしていると一人の登山者が入って来て、今夜は行仙宿泊りだと言っていたが、話もそこそこにして山を降りた。

(生熊 記)